**五重塔（五重小塔）**

**重要文化財**

天平時代（710〜794年）につくられたこの塔は、日本の屋内の塔としては最も小さく、そして最も古いものとされている。海龍王寺の東金堂と西金堂に収められていた一対の塔のうち、片方だけが現存している。このサイズは、寺の敷地が限られていたことの結果であると考えられている。というのも、五重塔は通常は10メートル以上の高さがあるからである。小さいサイズにもかかわらず、この塔の屋根や軒の細かい彫りには卓越した職人技が示されている。すべての仏教寺院の塔に言えることだが、この塔も仏陀の記念碑として、また信仰の対象として見なされている。